

病院での天体写真展の実施

齋藤 正一

(スペースパークボランティアの会
S・P・V 天文グループ)

1. はじめに

今まで何度か天体写真展を実施し、ご覧になって下さった方が、感動する様子を見るに付け、メンタルケアに活用できないかと考えていました。

今回、天文グループの自主活動として、病院という気持ちが沈みがちな場所において、患者の心の安らぎが少しでも得られるように、また、看護者(家族)等の気分転換を図ることを目的に病院での天体写真展を開催しました。

2. スペースパークボランティアの会 (S・P・V)について

スペースパークボランティアは、郡山市ふれあい科学館が開館した翌年の平成14年6月に生涯学習の促進と、2階の展望ロビーの効果的な活用を図るために、旧国鉄OBを対象に「鉄道ジオラマボランティア」が発足し、活動を開始しました。

平成15年3月に、広くボランティアの募集が行われ、7月から「案内サービスボランティア」「科学ボランティア」「天文ボランティア」が活動を開始することになりました。

その後、各グループのボランティア代表が中心となり、スペースパークボランティア運営組織準備会を発足し、ボランティア自身による自主的な組織運営を行うための協議を重ね、平成16年2月、スペースパークボランティアの会略称S・P・Vを設立しました。

S・P・Vは、案内サービス、科学、天文の4グループで組織されています。ボランティア活動を通して、郡山市ふれあい科学館とは、対等なパートナー関係をむすんでいます。スペースパークボランティアの会には、平成19年2月末現在で135名の会員が登録されており、天文グル

ープは34名が在籍しています。天文グループは、郡山市ふれあい科学館の活動を中心として行うほか、自主的に、天体観望会の開催や、星祭りに協賛するなど各種イベントを実施しています。

3. 天体写真展会場(病院)の選定

会場を選定するにあたり、できるだけ大勢の方に見ていただけるような病院を考えました。今回の写真展の会場としました竹田総合病院(福島県会津若松市)は、アメニティの整備に積極的であり、病院からもぜひ開催して欲しいとの要望がありました。

当該病院は1,000床を超える病床と、一日平均2,000名を超える外来者があります。さらに、院内には小中の養護学校が併設されていますので、天体写真展の主旨としては、最適な場所と思われることから選定しました。

4. 実施方法

竹田総合病院ロビーにて平成19年6月14日(木)から、7月5日(木)までの3週間開催しました。展示作品は、今までの天体写真展で評判の良かったもと、非日常を味わってもらうことを考慮し、オーロラの作品を主に12点を展示しました。開催期間中の土曜日には、天文グループの会員が、写真展示が行われているロビーにて、午前9時～午後3時まで写真説明を行いました。

病院という場所柄、救急患者などいろいろな状況の人が来ることから、なるべく周りの邪魔にならないように注意しました。

写真説明は、基本的に押しつけがましくないように注意しながら、見ている方が説明を聞きたいような雰囲気を感じた場合に行いました。

説明内容は、オーロラの写真の展示が多かったので、オーロラに関する昔話や、撮影先でのエピソードなど、見ている方により臨機応変に対応した。また、なるべく非日常的な明るい話に関

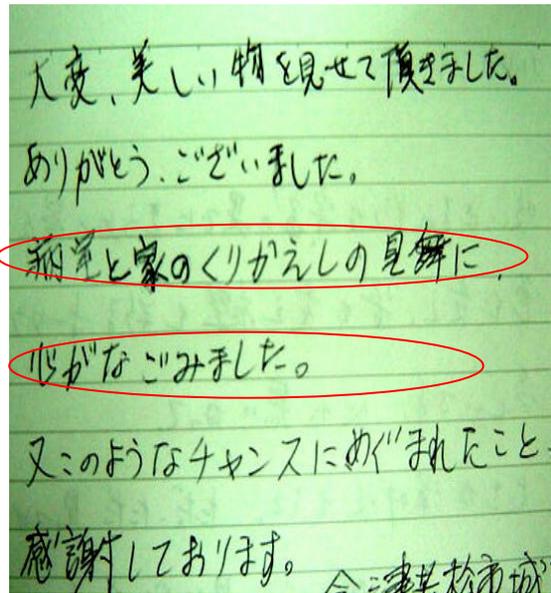
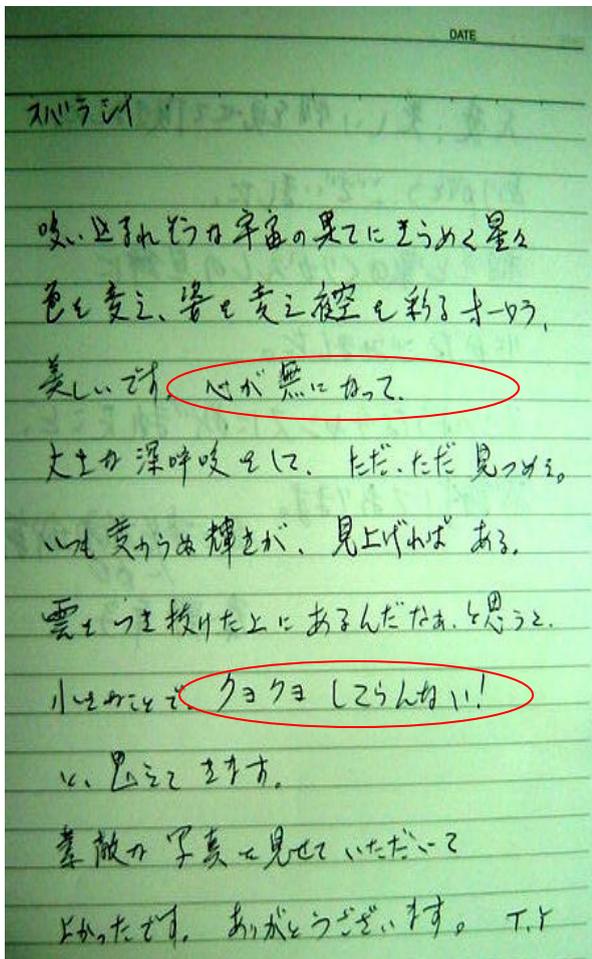
がけ、質問された場合を除き、あまり難しい話をさけるようにしました。

子供連れでお見舞いに来る方も多いので、オーロラの写真をシールにしたものをプレゼントに配った。

展示風景



5. 写真展をご覧いただいた方からの感想



写真展の場所に置いておきました感想ノートに記載していただいた内容です。「心が無になって」とか「小さなことでクヨクヨしてらんない」、家族の看病をされている方だと思いますが、病室と家のくりかえしの見舞いに、心がなごみました」等の記載をみますと、ホントに開催して良かったと思いました。

6. まとめ

開催前に考えていたより、見た人からの反響が多く、当初の目的は達成することができたと思います。また、メンタルセラピーとして、天体写真が活用できることも確認できました。天体に興味があっても、時間的にも体力的にも既存の科学館等を利用できない層に対しての天文普及活動は、小回りのきくボランティアが行う部分として有効だと思います。なお、平成19年度は、このほか6病院にて行う予定です。

7. 今後の発展的活動について

(1) 病室での写真展示

最近の病院は、アメニティの整備にも積極的であることから、病院と協議しながら邪魔にならない範囲で病室での天体写真展も考えています。

・大病院であると、病室での展示及び説明には大量の作品とマンパワー（ボランティア）が必要となるため、実施病院の選定及びボランティア協力体制の整備が不可欠となります。

（2）病院での天体観望会

・最近、地域とのふれあいの一環として、病院祭り等を行う医療機関が増えてきています。内容は、フリーマーケット、縁日等の日中の行事が主なものですが、これらの事業に合わせ、宵の早い時間帯に、月など比較的誰でも楽しめる内容で観望会を実施したい。

・通常の観望会も、救急患者の心配のない慢性期患者の専門の病院（療養病床）や、介護老人保健施設などで、内容を検討しながら、実施したいと考えています。